纏向古墳群（桜井市）

≪纏向石塚古墳≫

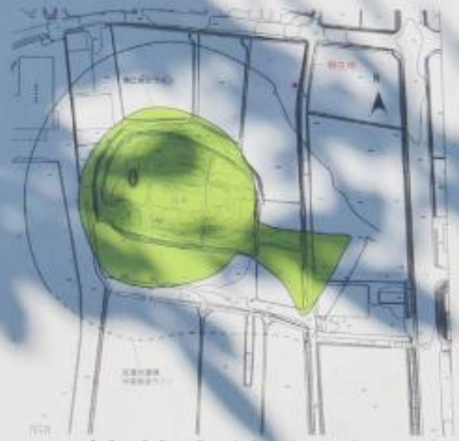
正面が纏向石塚古墳/前方後円形の弥生時代終末期の墳丘墓（纏向型前方後円墳）/3世紀前半～中頃の築造/右手前が後円部、左奥が前方部/北側から見たところ

纒向石塚古墳（墳丘墓）

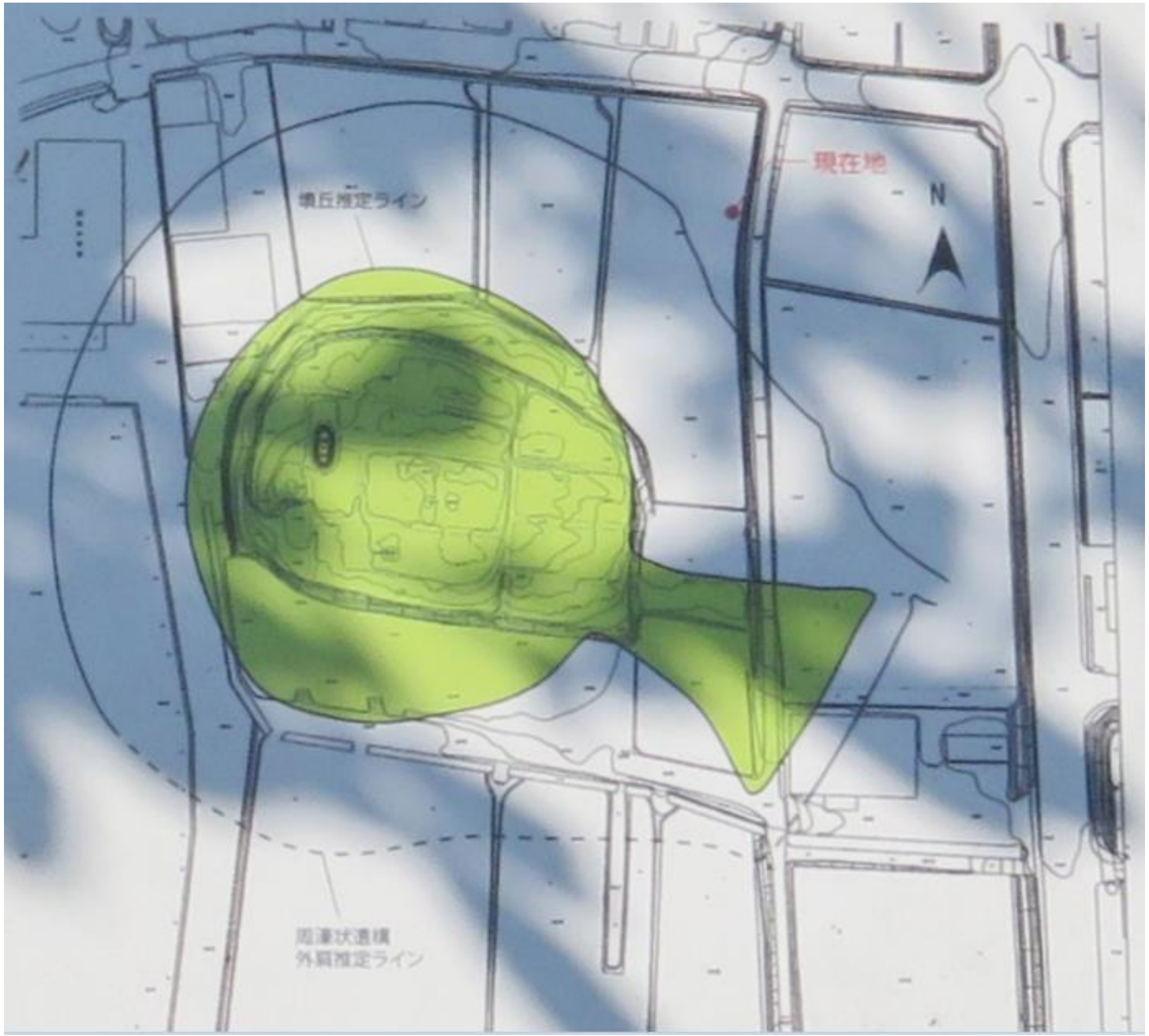
Makimukuisizuka burial mound

　全長約96mの前方後円形の墳丘をもつ大型墳墓。後円部径と前方部長の比率が２：１となる「纒向型前方後円墳」の典型的な例とされています。

　箸墓古墳などの定型化した前方後円墳が出現する以前の３世紀前半～中頃の築造と考えられ、のちの大型古墳に見られるような葺石や埴輪は存在しません。このため古墳時代初頭の「古墳」とする考え方がある一方で、弥生時代終末期の「墳丘墓」とする意見があり、古墳時代のはじまりを議論する上で注目される資料となっています。

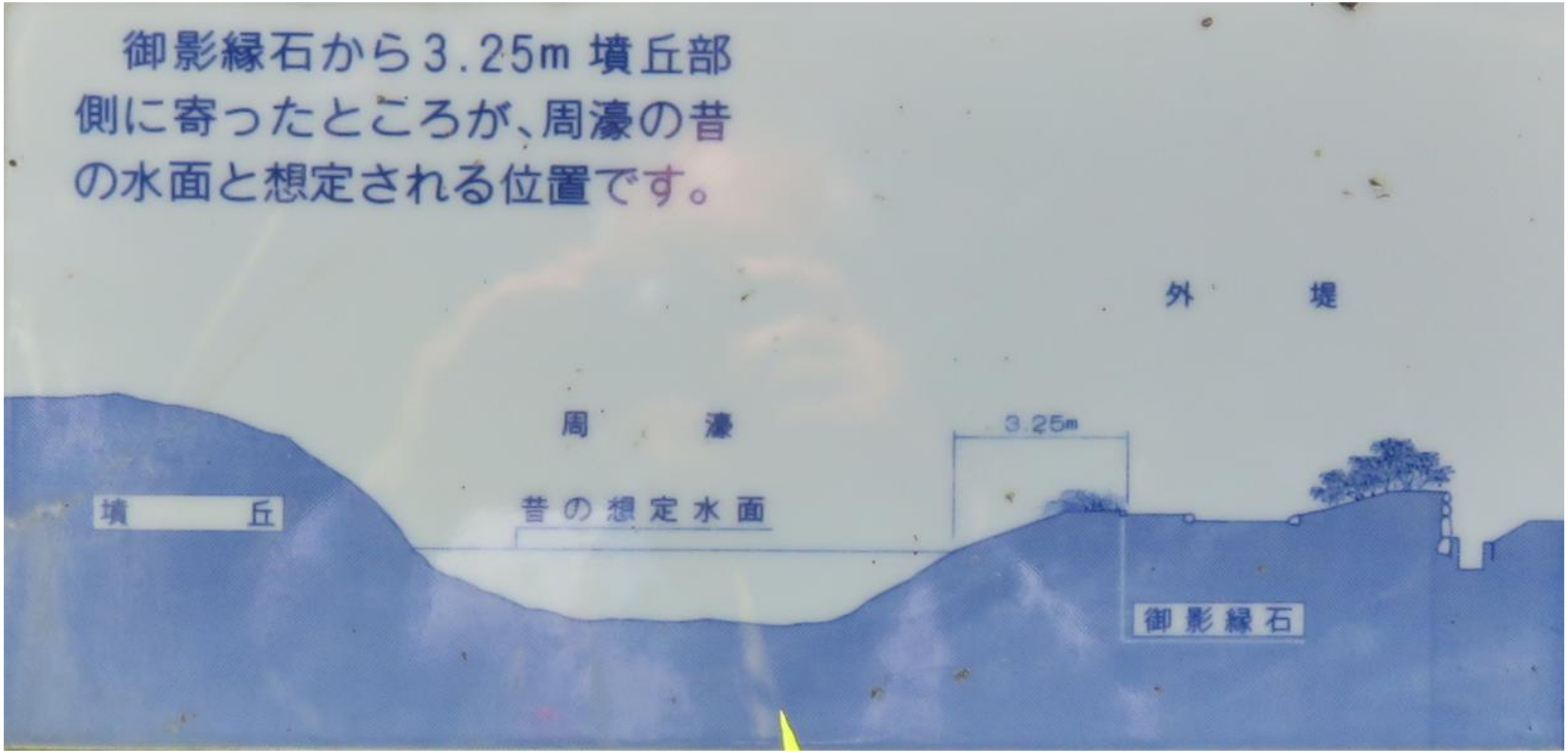


桜井市教育委員会


現在地
N
墳丘推定ライン
周濠状遺構
外肩推定ライン

南側から見たところ/左手が後円部、右手が前方部

説明坂の背後は周濠跡


御影縁石から3.25m 墳丘部側に寄ったところが、周濠の昔の水面と想定される位置です。
外　　堤
周　　濠
3.25m
墳　　丘
昔の想定水面
御影縁石

墳丘と周濠跡を見たところ/北側から見たところ

そこで左手を見たところ

同じく右手を見たところ

≪矢塚古墳≫

前方が矢塚古墳/前方後円形の弥生時代終末期の墳丘墓(纒向型前方後円墳)/3世紀中頃の築造/左手が後円部、右手が前方部/北西側から見たところ

矢塚古墳（墳丘墓）

Yazuka burial mound

全長９３m以上の前方後円形の墳丘をもつ大型墳墓。発掘調査により後円部は南北約５６m、東西約６４mとやや東西に長い形態であることが判明しました。周濠状遺構より出土した土器などから、定型化した前方後円墳が出現する以前の３世紀中頃の築造と考えられています。

後円部径と前方部長の比率が２：１となる「纒向型前方後円墳」の一例であり、纒向石塚古墳とともに前方後円墳の出現を考える上で重要な墳墓であるといえるでしょう。

桜井市教育委員会

N
周濠状遺構
外側推定ライン
現在地
後円部墳端
推定ライン
0
20m

左手前が前方部、右奥が後円部/南側から見たところ

左手が前方部、右手が後円部/南東側から見たところ

手前の周濠跡はこんな状態

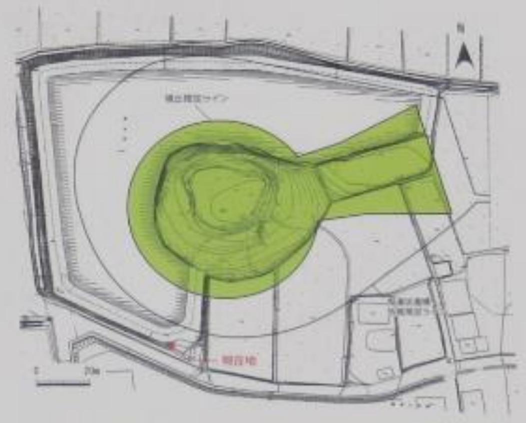
≪勝山古墳≫

前方が勝山古墳/前方後円形の弥生時代終末期の墳丘墓(纒向型前方後円墳)/3世紀代の築造/左手前が前方部、右奥が後円部/北側から見たところ

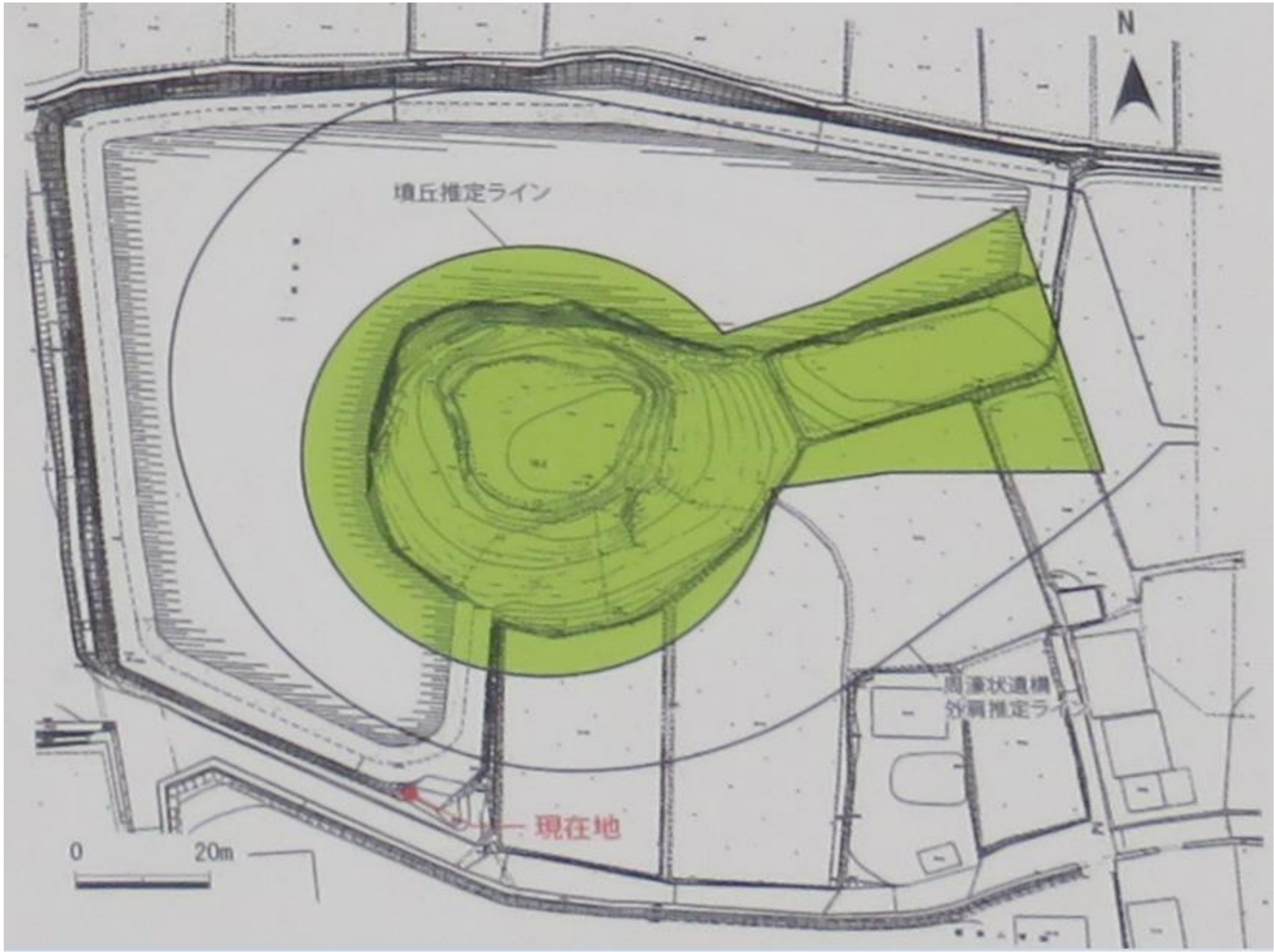
勝山古墳（墳丘墓）

Katsuyama burial mound

　３世紀代に築造されたと考えられる大型墳墓で、前方後円形の墳丘は全長約１１５ｍを測ります。纒向石塚古墳と同様に、定型化した前方後円墳が出現する以前に築造された可能性が考えられています。埋葬施設の内容は不明ですが、墳丘の周囲をめぐる周濠状の遺構からは土器や木製品が多数出土しており、なかには建築部材やＵ字形木製品など特異なものも含まれていました。これらの遺物は、古墳出現期における墳墓祭祀を知る上で貴重な資料となっています。



桜井市教育委員会


N
墳丘推定ライン
周溝状遺構
外周推定ライン
現在地
0
20m

右手に後円部を取り巻く周濠跡（現在は灌漑用水池として拡張されている）を見たところ

その先、後円部の後側の周濠跡を見たところ

後円部の後を見たところ/西側から見たところ

その右手を見たところ

反対側から周濠跡を見たところ/この辺りは埋まってしまっている

≪東田大塚古墳≫

正面は東田大塚古墳/前方後円墳/3世紀後半頃の築造/左手が後円部、右手が前方部/北西側から見たところ

東田大塚古墳

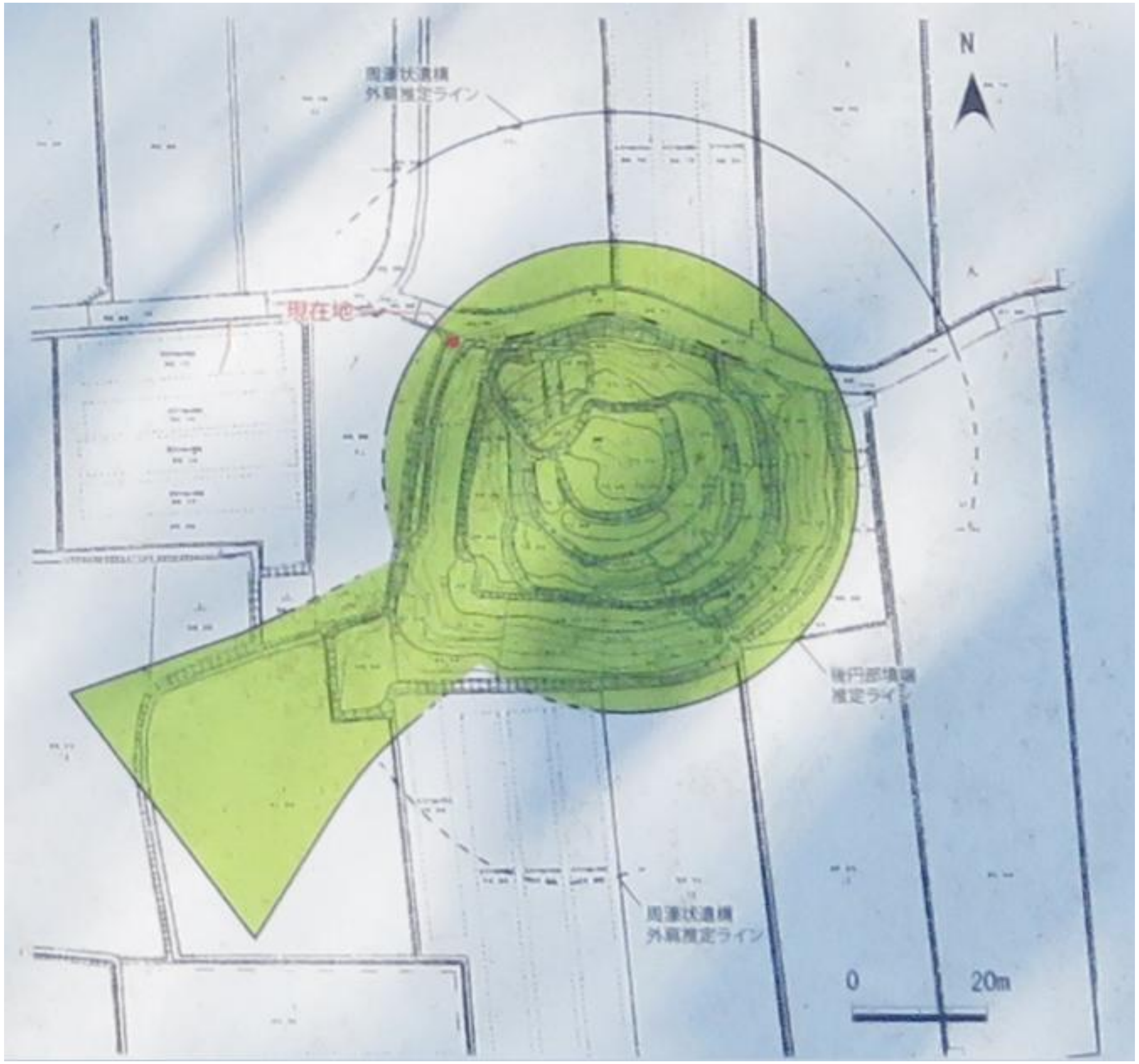
ひがい だ おお つか こ ふん

Higaidaotsuka burial mound

墳丘全長約１２０mの前方後円墳。現在は南西にのびる前方部が大きく削られていますが、纒向遺跡では箸墓古墳に次ぐ墳丘規模をもっています。埋葬施設の内容は不明ですが、古墳築造前後の遺構が確認されており、箸墓古墳とほぼ同時期である３世紀後半頃に築造されたと考えられます。

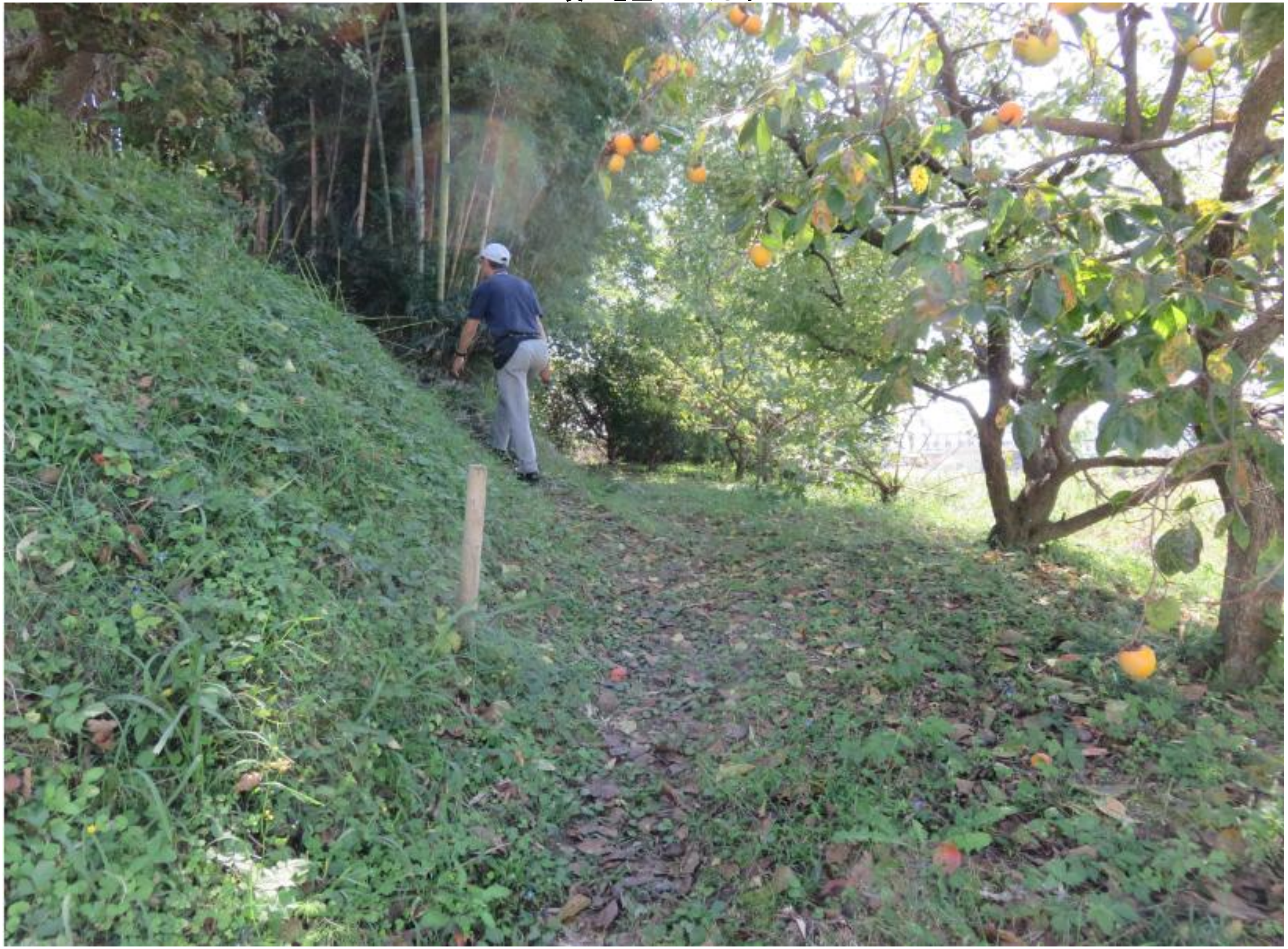
纒向遺跡ではホケノ山古墳とともに、築造時期が限定できる数少ない古墳の一つであり、出現期の前方後円墳の形態を知ることができる貴重な資料であるといえるでしょう。

桜井市教育委員会


N
周濠状遺構
外縁推定ライン
現在地
後円部墳端
推定ライン
周濠状遺構
外縁推定ライン
0
20m

手前の左手の周濠跡を見たところ

墳丘を登ってみよう



後円部の墳頂

そこから前方部方向を見たところ

前方部は大きく破壊されており、くびれ部の辺りしか残っていない/そこから後円部方向を見たところ

北東側から後円部を見たところ

≪ホケノ山古墳≫

これがホケノ山古墳/前方後円形の弥生時代終末期の墳丘墓(纏向型前方後円墳)/3世紀中頃の築造/手前が前方部、奥が後円部/南東側から見たところ

説明坂が立っている

史跡 纒向古墳群 ホケノ山古墳

ホケノ山古墳は、後の定型化した前方後円墳の成立につながるいくつかの要素を内包した初現的な古墳であり、纒向遺跡に所在するそれら「纒向型前方後円墳」と呼ばれる古墳の中では唯一その全体像が発掘調査により判明していることから、古墳の出現過程を考える上で貴重な例となっています。

全長は約 80m、後円部径約 55m、前方部長約 25m であり、埴輪はもたず、二段以上の段築と葺石も確認されています。

後円部の中央からは「石囲い木槨」と呼ばれる木材でつくられた槨の周囲に河原石を積み上げて石囲いを造るという二重構造を持った埋葬施設が確認され、中には舟形木棺が置かれていたと推測されています。

画文帯同向式神獣鏡

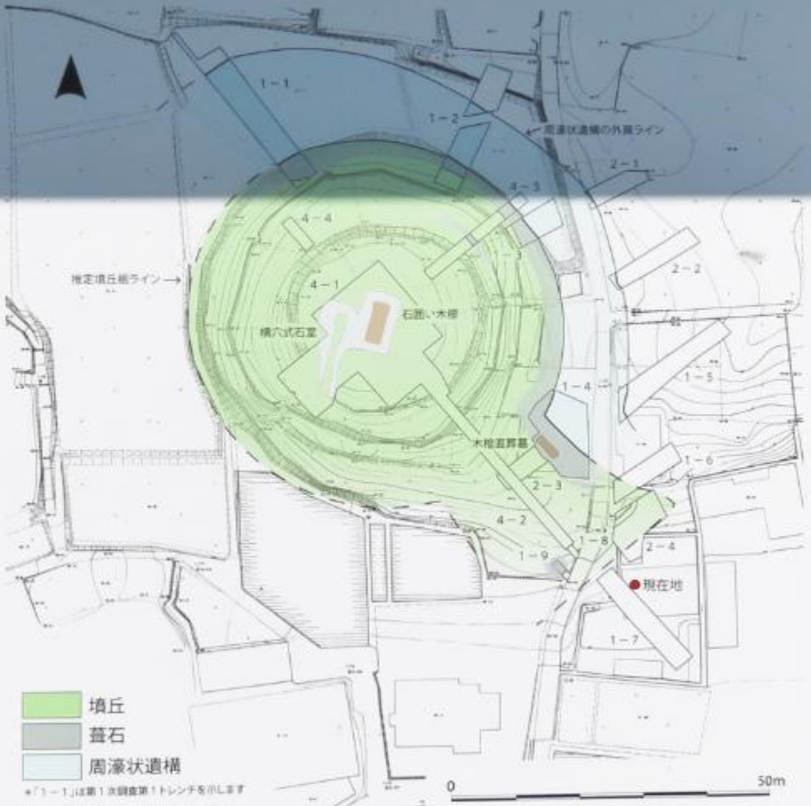
副葬品には、画文帯同向式神獣鏡の完形になるものと破片が１面ずつと、破片化した同一個体の内行花文鏡が複数片、素環頭太刀一口を含む鉄製刀剣類、鉄製農工具、多量の銅鏃・鉄鏃などがあり、他にも出土状況から石囲い木槨の蓋上にあったと推測される加飾二重口縁壺や小型丸底鉢が確認されました。

銅鏃

埋葬施設の構造やこれらの副葬品などから、古墳の築造の時期は３世紀中頃と考えられています。

また石囲い木槨の西側からは、墳丘を再利用し築かれた６世紀末頃の横穴式石室が検出されました。

加飾二重口縁壺



ホケノ山古墳復元図

ホケノ山古墳の墳丘

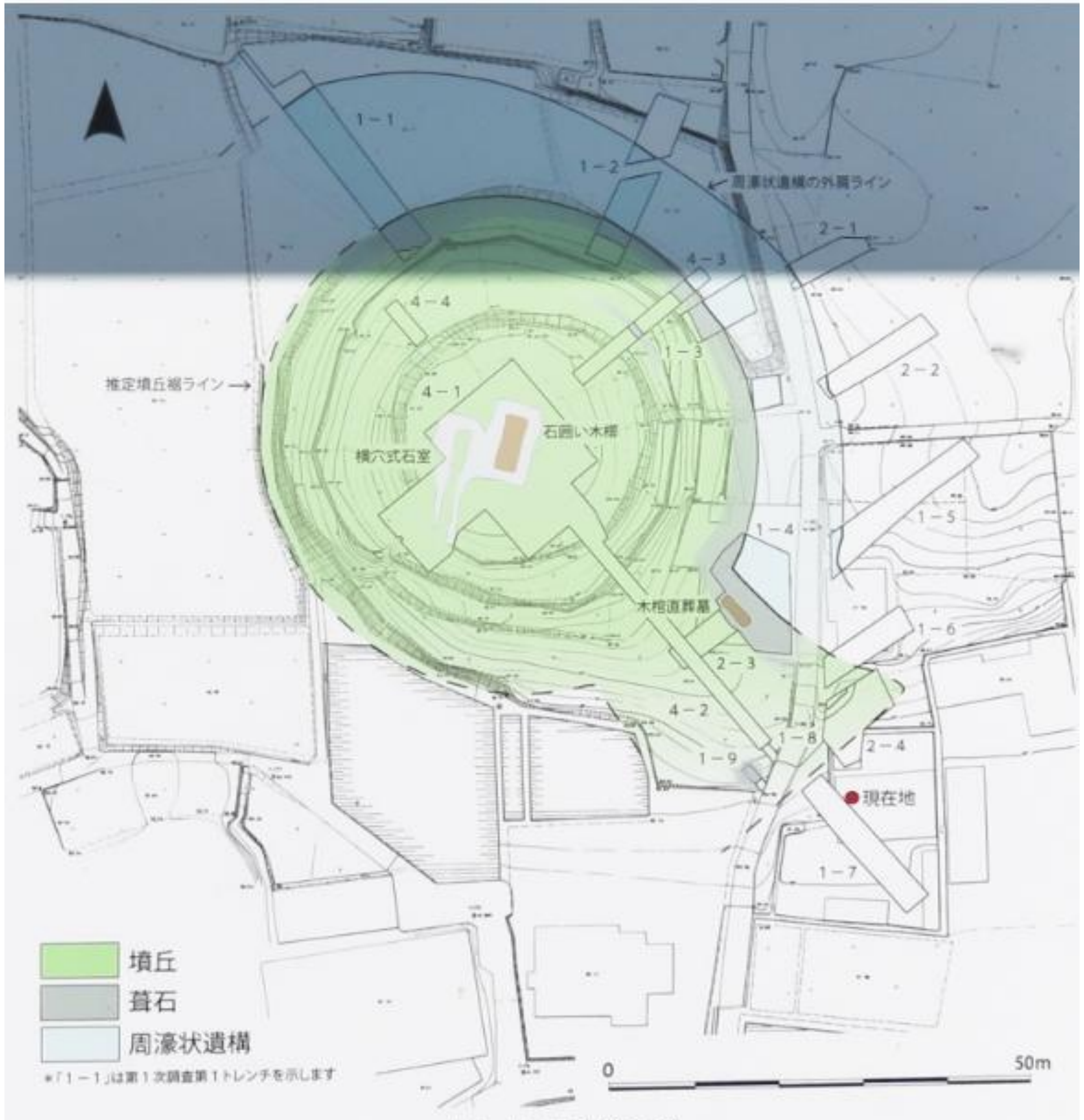
石囲い木槨

横穴式石室と家形石棺

写真提供：奈良県立橿原考古学研究所
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

史跡指定日：平成 18 年 1 月 26 日　桜井市教育委員会

後円部中央の「石囲い木槨」の他、その西側に6世紀末頃の横穴式石室が、更にくびれ部右側には木棺直葬墓が検出されている



ホケノ山古墳復元図

手前は前方部の葺石

その向こうにくびれ部右側の木棺直葬墓が復元されている

こんな塩梅

前方部東斜面検出の埋葬施設

歴史街道

ここに復元しているのは第二次調査において確認された埋葬施設です。墓壙の規模は全長四・二ｍ／幅一・二ｍ残存する深さは三十～五十㎝になります。

墓壙内には南端に大型複合口縁壺が、中央には底部を穿孔した広口壺が共伴し、これに挟まれるように全長二・一五ｍ／幅四十五㎝、現存する深さ十五㎝の組み合わせ式木棺の痕跡が確認できました。

また、木棺内部の南側からは四十×四十五㎝の範囲に薄く撒かれた水銀朱も検出されています。これらの状況からこの墓壙は埋葬に木棺を用い、複合口縁を有する大型壺・底部に穿孔のある広口壺を供献した埋葬施設である事が確認されました。

この埋葬施設は葺石をはずして、裏込め土から地山まで掘り込んで作られており、墳丘が完成した後に設置されたものと考えています。また、構築の年代については供献土器以外には全く副葬品が見られなかったため、供献土器の年代に頼らざるを得ません。

これらの土器は、概ね三世紀後半の中に治まるものであり、他の墳丘や周濠に伴って出土した土器の年代と大きく矛盾することはないと考えています。

桜井教育委員会

右手から見たところ

後円部側から見たところ

これは後円部墳頂

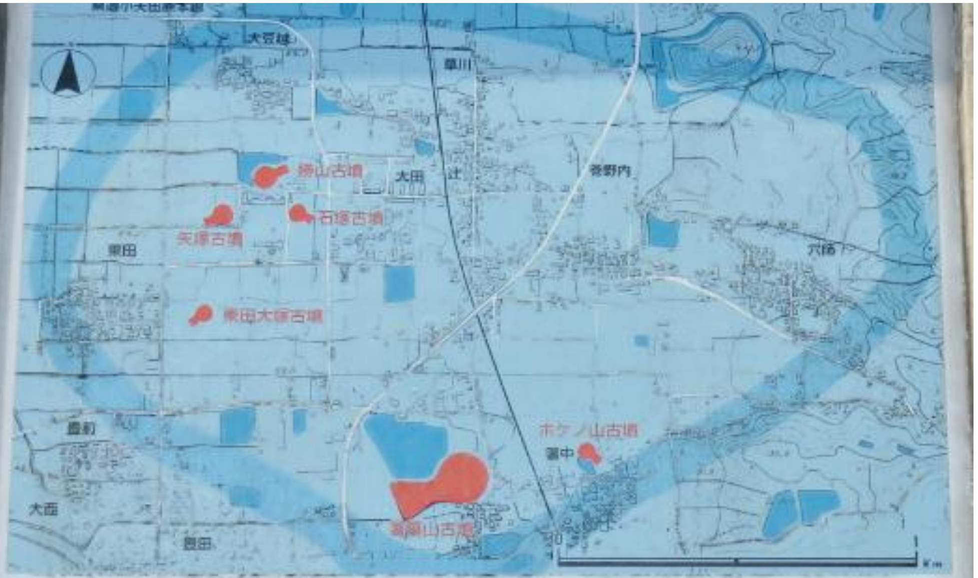
そこから北西方向を見たところ

左手を見ると前方に箸墓古墳が見える/東側から見たところ

振り返って東方向を見たところ

これは後円部から前方部方向を見下ろしたところ

ここにも説明坂がある/北東側から見たところ



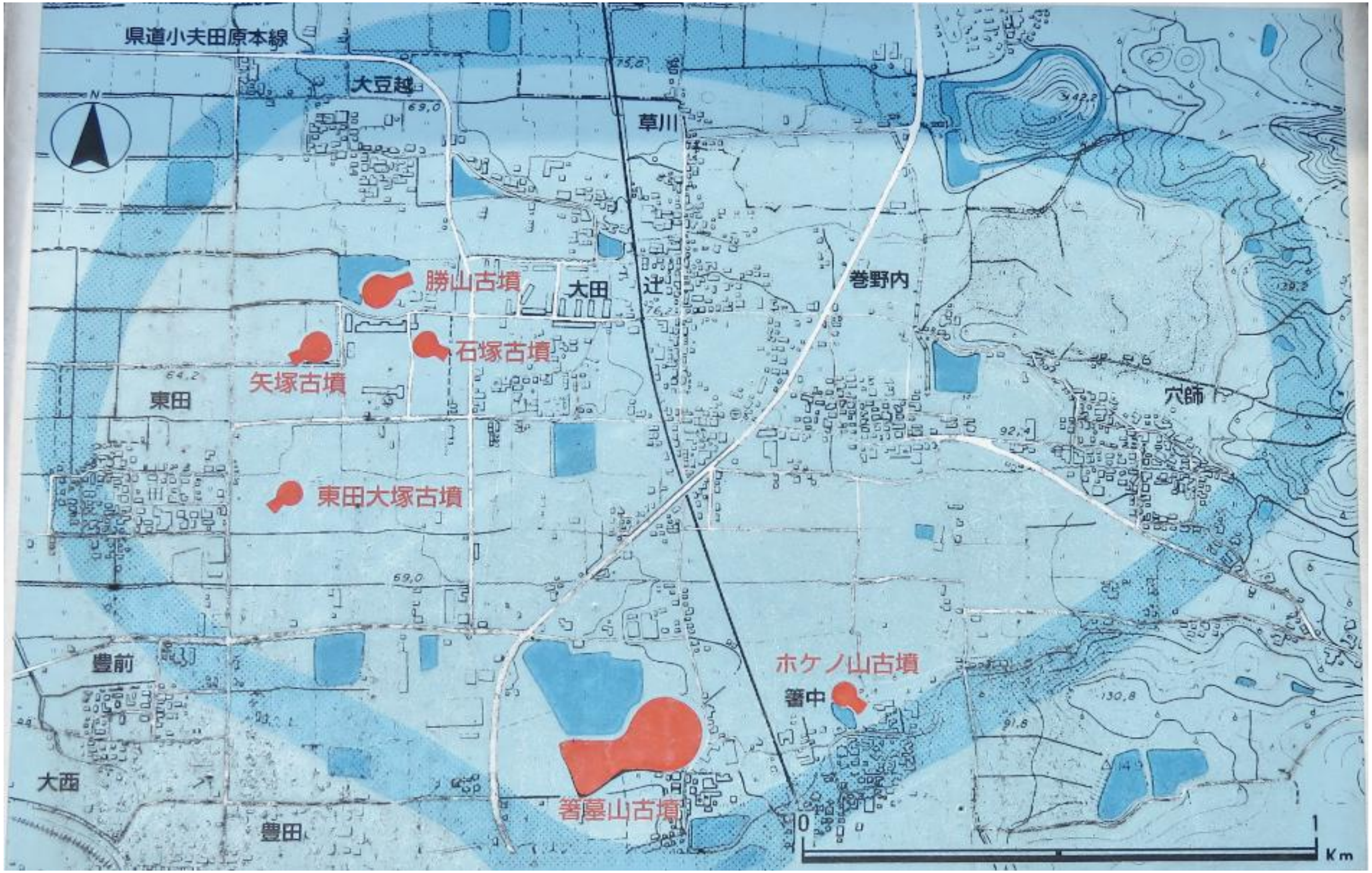
ホケノ山古墳と纒向古墳群

歴史街道

ホケノ山古墳の周囲には纒向遺跡がひろがっています。纒向遺跡は東西約二km南北約一・五kmの古墳時代前期の大きな集落遺跡であり、初期ヤマト政権発祥の地として、あるいは北部九州の諸遺跡群に対する邪馬台国、東の候補地として全国的にも著名な遺跡です。この遺跡は三世紀初めに出現し、およそ百五十年後の四世紀中頃には消滅してしまいます。

遺跡の中には箸墓古墳を代表として、纒向型前方後円墳と呼ばれる石塚古墳・矢塚古墳・勝山古墳・東田大塚古墳・ホケノ山古墳の六基の古式の前方後円墳があります。これらの古墳は、その築造時期がいずれも三世紀に溯るものと考えられており、前方後円墳で構成された日本最古の古墳群と言えるでしょう。

桜井市教育委員会


県道小夫田原本線
大豆越
草川
勝山古墳
大田
辻
巻野内
石塚古墳
矢塚古墳
東田
穴師
東田大塚古墳
豊前
ホケノ山古墳
箸中
大西
箸墓山古墳
豊田
0
1
Km

北東側から後円部を見たところ/二段以上の段築が見て取れる

そこで左手を見たところ

同じく右手を見たところ/周濠の様子も見て取れる

ホケノ山古墳の周濠状遺構

歴史街道

ホケノ山古墳では水をたたえるような周濠は確認されていませんが、古墳を東側の尾根から切り離すために掘削された周濠状遺構が確認されています。ここには縁石で周濠状遺構の肩のラインを示しています。

周濠状遺構は墳丘の東側と北側の調査区で確認されており、幅は狭い所で十・五m、広い所では十七・五mありました。過去の調査の中で最も西側に設定された第一次調査の第一トレンチからは少量の加工木とともに、数多くの土器片が出土し、これらは古墳の築造時期を推定する手掛かりとなっています。

周濠状遺構の平面形態は後円部側では墳丘に沿って丸く廻っていましたが、前方部側では一部でしか確認されず、はっきりとした形は解っていないため、ここでは前方部に沿って外へと開いていく案に基づいてその形を復元しています。

桜井教育委員会

後円部を後（北西側）から見たところ

そこで左手を見たところ

同じく右手を見たところ

≪箸墓古墳≫

これは纏向遺跡から見た箸墓古墳/北側から見たところ

近づいて見たところ/前方後円墳/3世紀中葉過ぎの築造/左手が後円部、右手が前方部/左手は三輪山

大和さくらい
100選
箸墓古墳と三輪山の風景
《ビューポイント》
桜井 記紀万葉プロジェクト推進協議会
連絡先／桜井市役所 ☎0744-42-9111

くびれ部辺りをアップで見たところ

左手の後円部を見たところ

右手の前方部を見たところ

これは前方部を南西側から見たところ

道路はこのように墳丘に沿ってカーブしている/前方部から後円部方向に見たところ

左手を見ると前方部の手前に拝所がある

こんな塩梅

倭迹迹日百襲姫命陵大市墓として宮内庁が管理している

左手から見たところ

北側から見たところ/左手が後円部、右手が前方部

これは茅原大墓古墳の墳頂から西方向に箸墓古墳を見たところ

参考ホームページ

https://4travel.jp/travelogue/10888426

http://www.geocities.jp/thirdcenturyjapan/makimuku/makimuku.html

http://blog.livedoor.jp/myacyouen-hitorigoto/tag/%E7%BA%92%E5%90%91%E5%8F%A4%E5%A2%B3%E7%BE%A4

http://www.ookuninushiden.com/newpage240.html

http://osakakoteisa.blog.fc2.com/blog-entry-29.html

医療法人社団岡田
会山の辺病院
辻
桜井線
桜井市立纒向小
珠城山古墳群
巻向
春日神社
50
巻野内
巻野内石塚古墳
東田
江包
50
箸墓古墳
慶運寺
桜井線
豊前
箸中
大西
茅原大墓古墳
Google